

人間性豊かで 心身ともに健康な実践力のある たくましい子どもの育
めざす児童像 — たくましく考え たくましく判断し たくましく行動（表現）する子ども —

【本校の課題】

- 新体力テストの全国平均を下回っている項目が過半数を超えており、上回っている項目も、平均に近い数値になっている。
- 各学年、握力とソフトボール投げの記録が全国平均と比較して特に低い数値になっている。
- スポーツや運動遊びの経験が少ない児童が多く、運動に親しむ習慣に二極化が見られる。

【現状】

休み時間に元気よく屋外で遊ぶ児童はいるものの、屋内で過ごす児童も多数いる。これまでの取り組みや声掛けが十分ではなかったため、体育のない日は1日に1度も体を動かす経験ができていないこともある。

体育の授業においては、各学年の授業始めの運動を設定し、継続的に実施することで体力づくりに取り組んでいる。また、芝生化により運動場でなわとびをすることを取りやめていたため、縄跳びをする機会が少なくなっていたが、一昨年度から運動場のトラックの周りに縄跳びスペースを確保したことで、縄跳びに取り組む児童が少しずつ多くなってきている。

〈昼休みの体育館開放〉

毎日2クラスずつ、昼休みに体育館を使ってクラス全員で遊べるようにする。外遊びの習慣があまりない児童に対して運動することへのきっかけづくりをする。

クラスで遊びを考えたり、教員と一緒に参加したりすることで、なかまづくりとしての効果も期待される。

体育委員が各クラスに用具の貸し出しを行い、児童が主体となる取り組みにしていく。



〈ボール運動クラスマッチ〉

2学期のクラスマッチとしてボール運動クラスマッチを行う。クラスマッチに向けて、単元全体の時数を増やし、ボールを投げる、捕るなどの基本的な運動に親しむことができるようにする。

クラスマッチ化することで、クラス内での自分の役割意識をもつことができるようにし、運動に参画する態度を育てる。



〈縄跳びへの取り組み〉

学年に応じた縄跳びシートを全学年に配布し、児童の縄跳び運動に対する関心を高める。

体育館の縄跳び開放、運動場の縄跳びスペース、ジャンピングボードの設置、各クラスへの長縄配布など、環境を整えていく。

冬場の取り組みだけだったものを、1年を通して行い、児童が縄跳びに親しむことができるようにする。



〈放課後陸上 持久走クラブ〉

体力づくりの一環として、11月～1月までの間、5・6年生を対象に、持久走の陸上クラブを開設する。筋、全身持久力や心肺機能の向上に加え、自分の心と向き合いながら運動することで、身体的、心身的な成長を促す。

走るという基本的な運動の特性に触れることができるようにすることで、生涯のスポーツライフへのつながりを模索する。



【目標】

- 全ての取り組みで児童の情意そのものに焦点をあてることで、運動好きを増やすことから新体力テストの記録向上へとつなげる。H32までに、半分以上の項目で全国平均以上を目指す。
- 運動やスポーツに親しむ経験ができる場を設けて、運動が楽しいと答える児童を90%以上にする。
- なかまとともに運動する機会を増やすことで、スポーツライフに向けた対人性と社会性を養う。